

会 議 録

会議の名称	平成28年度第1回守谷市行政改革推進委員会			
開催日時	平成28年5月16日（月） 開会：14時30分　閉会：16時50分			
開催場所	守谷市役所 庁議室			
事務局（担当課）	総務部企画課			
出席者	委員	川西会長，佐々木副会長，牛島委員，福田委員，吉田委員 計5人		
	その他			
	市職員	須賀総務部長，古谷総務部次長兼企画課長，前川課長補佐， 石神企画員 計4人		
公開・非公開 の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人	
公開不可の場合 はその理由				
会議次第	1 開 会 2 会長挨拶 3 議事 （1）平成28年度外部評価選定施策について （2）外部評価に係るフォローアップについて （3）事務事業評価について （4）行政改革実施計画について （5）その他 4 閉 会			
確定年月日	会議録署名			
平成28年5月23日	会長 川西憲二			

審 議 経 過

1 開 会

2 会長挨拶

本年度もこれまで同様に活発な御意見をお願いいたします。

御承知のとおり、当委員会は、要求水準の高い委員会です。我々市民として、守谷が日本で一番住みやすく、一番良い市政になっていただきたいと心から思っています。立派で誇りある守谷市政になっていただけるよう、よろしくお願いいたします。

【委員自己紹介】

【事務局職員自己紹介】

川西会長： 本日の議事につきましては、これまでどおり、皆様からの異議がない限り、氏名を付したままで、意見の内容を議事録といたします。

3 議 事

(1) 平成28年度外部評価選定施策について

【今年度の外部評価対象施策として、事務局から案1・案2を提案】

- | | |
|---|----------------------------------|
| { | 案1：広聴と情報発信の充実，集客資源の創出と充実，商工業の活性化 |
| | 案2：広聴と情報発信の充実，適正な行財政運営の推進 |

川西会長： 皆様から御意見をお願いいたします。

福田委員： 「広聴と情報発信の充実」についてですが、TwitterやFacebookを拝見していると、市内における新しい情報が共有でき、市民の方もたくさんアクセスしているようですが、プロモーションという観点からは、対外的にもう少しユニークなことを打ち出した方がマスコミの目にも付くと思います。対外的な発信をどう考えているか、どういう市でありたいかを伺いたいです。

吉田委員： 行政経営は、もう少し市役所の総まとめの内容であることを期待していたのですが、いただいた資料を見る限り、事業内容が評価しづらいものに感じます。そうすると、評価対象は案1になるかと思いますが、言葉の順番からいくと「地域資源と情報発信」だと考えます。守谷市が人を呼び込める持続可能な市となり得るための基盤を一緒に考えて、それをどうやって行政や市民から発信していくかは重要なことであり、これからの守谷市を考えると、評価しておく必要があります。この委員会の

本質からいくと、行政経営を評価すべきだとは思いますが、事業の組み替えも大変なので、案1が良いと思います。

佐々木副会長： 行財政経営という観点で捉えられるのなら、案2を選びたいと思いましたが、含まれる事務事業を見ていくと、行財政経営でなく行財政事務といった感じがあり、それらをここで評価しても付加価値が付けられないと考えます。これらの事業を見直していかなくてはならないのは事実ですが、廃止や統合を検討しても的を射たものになりません。そのため、対象は案1にならざるを得ないと思います。外に対してどのようにして守谷市の良さを理解してもらうか、また、住民を増やすためにどのような事業を展開できるかを提言していきたいと思います。

川西会長： 行政経営が行政改革という観点でまとめられるようなら評価したいのですが、それができないのなら案1になると思います。

佐々木副会長： 行政経営という観点で事業を選び直すことはできますか。

事務局： 事務事業評価シートを対象に外部評価を実施するとすると、施策の単位となり、該当する事業を選ぶことはなかなか難しいです。

佐々木副会長： 吉田委員や私が想定していた内容は、事務事業の視点ではなく、横断的なものになるのでしょうか。

吉田委員： 個々の事業を評価するよりも、横軸で補助金や審議会の制度といった手法ごとに評価をしていくことが行政改革につながると感じています。今までこのような形式で評価してきて、急に变えることは難しいでしょうから、次年度以降、こういった方法も含めて考えていければと思います。

川西会長： 全体の行政の効率化や改善といった部分を取り出されず、今実施していることを評価しているだけになっています。

事務局： それらを解決していくのが事務事業だと思いますが、実際にはそうならないのが現状です。これらを踏まえて、体系や評価の見直しを検討していきます。

川西会長： 行政改革や行政の効率化につながりやすい事務事業の仕分けをお願いします。事務事業を評価することで、行政改革の進行状況が分かるような仕分けが必要です。

佐々木副会長： 企画課が中心となって全体の方向性を定め、担当部局に割り振るのだと思いますが、それを横軸で見ないかと行政改革はできません。

川西会長： 行政改革について様々な意見は出ましたが、外部評価の選定施策としては、案1でよろしいでしょうか。

吉田委員： ここでは、集客資源として商工業や観光が挙がっていますが、本来、教育、環境、上下水道といった部分まで踏み込まないと、地域資源を捉え切れなと思います。

事務局： 関連性があれば、加えることもできます。

吉田委員： 都市基盤や教育なども含めないと、魅力を掘り起こして発信するという点では、少し足りないと感じます。

事務局： 広報活動は魅力を全て抜粋した上で実施しますので、どうやって発信していくかが重要になります。関連した事業を評価したからといっても魅力の発信にはつながらないと思います。関連した事業の中身が分からないと評価できないという側面もありますが、選定した施策を評価しながら、関連事業もみていただければと思います。

【今年度の外部評価対象施策を案1に決定】

(2) 外部評価に係るフォローアップについて

【平成26年度に外部評価を受けた事業の進捗状況等を事務局から説明】

■社会教育委員の会議開催事業について

福田委員： 社会教育委員の会議の人数は、どのように削減されたのですか。

事務局： 平成28年度の改選の時期に合わせて、委員の構成を見直した上で、人数を削減しました。

川西会長： 会議の開催数の少なさと議論の結果が出ないことについて過去に意見を出しましたが、その部分は改善されましたか。

事務局： 会議として社会教育の活性化につながる提言書を提出し、今後はそれに基づき団体やサークル向けのハンドブックを作成するという事なので、一定の成果は出たものと考えます。

■全般的事項について

佐々木副会長： 昨年度の外部評価フォローアップの際に、委員会の提言を利用して、もっと改善を進めてほしいとお願いしたのですが、それがいきっているようにはみえません。一部修正の繰り返しでなく、改革を試みないと新しいものは生まれないのです。

吉田委員： 委員会の提言を実行するには、壁が厚かったようですが、その壁を市役所側で乗り越えていく方法を考えないといけません。委員会からの答申を踏まえて、もっと改革に取り組んでほしいですし、それが委員会の存在意義にもなります。委員会の意図するところと行政側の思いを突き合せながら、改革に取り組んでいただきたいと思います。

事務局： 担当課だけでは調整が難しい部分もありますので、企画課が中心となって進めていくことも考えています。

川西会長： 今よりも、もう一歩進んだ取組を考えてください。

佐々木副会長： 取組は継続していると思いますので、良い方向に具体化できるよう押し進めてください。

(3) 事務事業評価について

【平成28年度の事務事業評価に向けた取組について事務局から説明】

佐々木副会長： 委員会の提言に対して、着実に取り組んでいただいていると感じましたが、更に取り組のステップを上げていくために、評価期間をもっと短くできる方法を考えてください。

事業数ももっと減らして良いと思います。行政経営の施策に位置付けられている事業名だけを見ると、全て簡易評価でも良いぐらいです。行政の効率化を図るため、簡易化を広げ、重点事業のみこれまでどおりの評価としても良いのです。簡易化や統合など良いスタートは切れているので、これを加速して更なる成果を挙げてください。

川西会長： スケジュールを見ると、一次評価と二次評価が別々に行われているように感じますが、それを有機的にすることで、評価に掛かる時間ももっと短くなるのではないのでしょうか。

事務局： 事務事業評価については、二次評価を実施する中で、一次評価者である課長と二次評価者である部長とで協議し進めています。施策・基本事業評価については、担当課長が一次評価を実施しますが、二次評価は全部長が全施策を客観的に評価するので、そこでの協議はできていません。

佐々木副会長： 先ほどの簡易評価や統合と結び付くのですが、全ての事業を二次評価するという考えを改めても良いと思います。

事務局： 委員会での御意見を踏まえて、検討していきます。

現在の事務事業評価は、評価結果を次年度の予算に反映できていないので、評価の時期を見直すなどして、その部分も改善していきたいと考えています。また、評価のマンネリ化も見受けられるので、目標をしっかりと持たせられるような評価ができるように進めていきます。

川西会長： できるだけ各課の労力を減らすことで、短期間で評価が終わるようにし、その結果を予算に結び付けられるように取り組んでください。

佐々木副会長： 簡易評価を増やすことは、部下にそれだけ任せることになり、管理職にとってのリスクテイクとなるのです。リスクテイクをすることは、普段からのしっかりとした管理も必要になります。職員の意識や管理のメカニズムを変えるための非常に有効な手段となり得るのです。

また、管理職は、部下が行う仕事に付加価値を与え、仕事への意欲を持たせることも重要です。

川西会長： 事務事業につきましては、今のような方向で更なる検討をお願いいたします。

(4) 行政改革実施計画について

【第七次行政改革実施計画の執行状況を管理していく様式等について事務局から説明】

佐々木副会長： 本来は、目的を達成するために現状と課題があるという考え方であって、様式案の現状と課題があるからこうしたいというのでは、泥縄式になっていると感じます。この順番だと目標が小さくなってしまい、課題を解決するための目標にとどまってしまうので、順番を逆にして、考え方を覚えてもらった方が良いと思います。

課題が解決されれば、目標達成に近づくので、取組内容はそれを実感できるものになっている必要があります。今の書き方では、課題を解決するだけの取組に見えてしまうので、目標を立てて、そこから課題を認識し、それを解決するために取り組むというステップの方がスムーズに考えられます。

年次計画も、それを実行することで目標達成が実感できるような活動項目になっていません。ゴールに近づいていることが明確に分かるような活動計画にして、評価をするときにもそういった視点を持ってください。

自分たちの力で越えられない障害があるのなら、それも明確にしておいてください。

進行管理表については、予定のステップに向かっていることをきちんと説明できる内容にしてください。

事務局： 様式案の1ページ目は、実施計画として公表しているため、内容を変えることはできません。

佐々木副会長： 内容を変えることができなくても、考え方は徹底していただきたいです。

川西会長： 平成30年度にも取組はあるはずなので、評価とは別に取組状況や課題といった進捗状況を確認する欄を設けるべきです。また、選択肢の欄の「達成」と「順調」の違いは何ですか。

事務局： 「達成」は取組が終了したこと、「順調」は計画どおり進捗していることを想定しています。

川西会長： その辺りを分かるようにしてください。

ここで出た意見を踏まえて、更に検討を重ねてください。

(5) その他

■スケジュールについて

事務局： 例年、最終回は市長ほか幹部職員が出席した上で、外部評価に対する市の方針を提出していますので、議会の会期と重なったときには、日程を変更させていただくことになる場合があります。委員会の進行状況を

見て、調整させていただきます。なお、各回とも月曜日の午後2時30分開始予定です。

■外部評価対象施策の事務事業評価表について

事務局： 外部評価の実施に当たりまして、早めに平成27年度の事務事業評価表をお送りしたいところですが、現在、二次評価が終わっていないため、終了次第、6月上旬を目途に委員の皆様にお送りします。

4 閉 会